

分野	人が輝くまもと	戦略	働くことを通して自己実現できる社会
		重点的に取り組む施策	若年者の就労支援

番号	事業名 担当課	予算・決算 (千円) 上：H21予算 中：H21決算 下：H22予算	事業の概要	事業の成果、実施上の課題、改善の方向性等
1	若者自立支援事業	3,377 2,143	若年無業者（ニート）を対象とした相談窓口を設置し、個々の状況に応じたきめ細かな支援を行うことで、職業的自立を促進する。 (1) 相談窓口「若者サポートステーション」の設置【国費】 (2) ネットワーク会議の運営による関係機関の連携強化	○平成21年度の実績、成果 若年無業者（ニート）の職業等に関する悩み相談や就業支援等を行う「若者サポートステーション」と関係機関との連携を図るため、ネットワーク会議を2回開催。また、「若者サポートステーション」利用者にボランティア体験・就労体験等の場を提供し、14人（延べ89日）が各カリキュラムを体験。
	労働雇用課	3,545	(3) 就労体験等の機会の提供 (4) 心理カウンセリングの実施及び各種講座の開催【委託】	○事業実施上の課題、今後の改善の方向性 ニート化に至る原因や支援策等を明らかにすることで、若者が無業化することを予防するとともに、適切な支援を行う。また、企業との理解・協力を促す取組を進める。
2	若年者対策ワンストップセンター事業	7,663 7,406	若年者の厳しい雇用情勢に対応するため、関係機関との協働運営により「ジョブカフェくまもと」を設置し、雇用関連サービスをワンストップで提供する。	○平成21年度の実績、成果 ジョブカフェ・サテライト員の配置に伴い、チラシ配布、テレビ放送等、ジョブカフェ関係の広報を行ったこともあり、利用者数、来所者数、就職者数の増加に繋がった。 利用者数 42,099人（対前年比119.2%） 来所者数 26,782人（対前年比129.1%） 就職者数 942人（対前年比146.5%）
	労働雇用課	7,638		○事業実施上の課題、今後の改善の方向性 来所者数は増えており、今後とも関係機関と連携のうえ、サービス面での更なる充実が求められる。 また、県内就職希望者に応えるため、県内中小企業の魅力を発信し、それらの企業と若年求職者のマッチングを支援していく必要がある。
3	ジョブカフェ・サテライト員事業	15,854 14,128	ジョブカフェくまもとのサービスを地域に展開するため、地域振興局5カ所に「ジョブカフェ・サテライト員」を配置し、各種就職支援サービスを提供する。	○平成21年度の実績、成果 事業所、学校等を2,400回以上訪問し、相談者数の確保、マッチングのための情報収集を図ったことにより、就職者数の結果に繋がった。 相談者数 4,484人 就職者数 228人 ※職業講話受講者 2,577人(22回分)を含む。 ※相談者数については、上記「若年者対策ワンストップセンター事業」の利用者数に含まれる。
	労働雇用課	-		○事業実施上の課題、今後の改善の方向性 (平成22年度からはジョブカフェ・ランチ事業に)
4	ジョブカフェ・ランチ事業	-	県下全域にジョブカフェのサービスを拡充するため、全地域振興局（10カ所）に「ジョブカフェ・ランチ」を設置し、地域の若年者への就職支援等を実施する。	○平成21年度の実績、成果 (ジョブカフェ・サテライト員事業を参照)
	労働雇用課	58,639		○事業実施上の課題、今後の改善の方向性 ジョブカフェ・ランチの認知度を高めていくために、市町村へも広報誌掲載等の協力を求めている。
5	若年者就職支援事業 (H21は「新若年者就職支援事業」)	31,500 29,043	40歳以下の若年者を対象に、就職に必要な知識・技能を習得するための4か月の職業訓練（1か月の企業実習を含む。）を、民間教育訓練機関等に委託して実施する。	○平成21年度の実績、成果 6コース、定員120名で訓練を実施し、116名が受講した。そのうち、就職者数は74名
	産業人材育成課	43,046	※H22年度 8コース・定員160名に拡充	○事業実施上の課題、今後の改善の方向性 依然として厳しい雇用情勢が続く中、引き続き、企業の求人ニーズをより的確に把握し、これを満足させる知識・技能の習得のためのコース設定に努める。また、受講者が訓練修了後に就職できるような支援体制の強化を図る。
6	高校生キャリアサポート事業	47,901 41,487	キャリアサポーター25人を県立高等学校35校に配置し、就職を希望する生徒への求人開拓等による就職支援や教員の進路指導の資質向上を図るための講話等を行い、社会生活への円滑な移行、早期離職防止を支援する。	○平成21年度の実績、成果 高校生のキャリアサポート事業では、就職の厳しい高校にキャリアサポーター（前期18人を34校、後期22人を35校）を配置した。配置校の3月末の決定率は公立全体の決定率を上回り、+0.1ポイントになった。
	教育庁 高校教育課	62,748		○事業実施上の課題、今後の改善の方向性 キャリアサポーターの任用期間に限られるため、企業との連携や学校・生徒の実態把握について円滑に行われるような体制を構築する必要がある。

番号	事業名 担当課	予算・決算 (千円) 上：H21予算 中：H21決算 下：H22予算	事業の概要	事業の成果、実施上の課題、改善の方向性等
7	特別支援学校キャリアサポート事業 教育庁 高校教育課	4,235 3,965 4,194	キャリアサポーター2人を配置し、特別支援学校に生徒に対する就職支援を行うとともに、就職後の早期離職防止を図る。	<p>○平成21年度の取組みの実績、成果</p> <p>ひのくに高等養護学校と松橋養護学校の2校にキャリアサポーターを配置（平成21年5月1日～平成22年2月28日）。キャリアサポーターが求人開拓のため訪問をした企業先のべ1,135社（2校分）</p> <p>・平成21年度のひのくに高等養護学校卒業生の就職率は58.1%（H20：72.2%）であった。（松橋養護学校専門学科は22年度に初の卒業生を出す。）</p> <p>○事業実施上の課題、今後の改善の方向性</p> <p>厳しい経済情勢の中で、特別支援学校の卒業生にとって就労することは以前にも増して厳しい状況であり、求人開拓のために企業訪問を実施しているが、求人が少ない。今後、保護者や教職員を対象に講話や情報提供することで、求人開拓をさらに効率、効果的に行うとともに、関係課と連携し、企業等への就職確保・拡大の要請等を充実させる。</p>
8	学生発ベンチャー・夢挑戦ビジネス支援事業 産業支援課	899 888 899	大学生・高専生・高校生を中心にした若者から斬新なビジネスプランを募集し、優秀な者を表彰するとともに、創業に必要なセミナーを受講させることにより、若者の創造能力とベンチャー精神の育成を図る。	<p>○平成21年度の取組みの実績、成果</p> <p>・大学11件、高専1件、高校2件の計14件のビジネスプランの応募があり、ビジネスプランのブラッシュアップ指導後、プレゼンテーション審査により大賞1件、優秀賞1件、奨励賞6件を決定。</p> <p>・大賞受賞者は、ベンチャーマーケット二火会にてプレゼンテーションを実施、また、受賞者へ受賞者へ創業に必要な知識を習得するためのセミナー等を実施し、若者の創造能力とベンチャー精神の育成に取組んだ。</p> <p>・更に、オール九州の大学発ビジネスプランコンテストに県内大学から3プランの提案があった。</p> <p>○事業実施上の課題、今後の改善の方向性</p> <p>・各教育機関及び各教授等への事業周知・協力関係の体制構築</p>
9	キャリア教育応援団事業 労働雇用課	1,730 1,207 1,578	<p>教育界が行うキャリア教育に対する産業界・行政の支援策として、県内事業所による「キャリア教育応援団」としての登録を推奨し、登録情報を学校に提供するなどの取組を推進する。</p> <p>(1) キャリア教育応援団の募集・登録</p> <p>(2) 広域インターンシップ事業（県外大学生等が県内企業でインターンシップができる機会の確保）</p>	<p>○平成21年度の取組みの実績、成果</p> <p>職場見学や職場体験等のキャリア教育の取組に対して無償で協力いただける県内事業所を「くまもとキャリア教育応援団」として新たに登録（204事業所）。登録情報（1,145事業所）は、県のホームページを通して学校等に提供。</p> <p>○事業実施上の課題、今後の改善の方向性</p> <p>キャリア教育は、地域や家庭、事業所等での体験活動や地域の職業人との関わりで進められることから、教育界の取組に対する産業界・行政の支援体制の更なる充実を図る。</p>
10	キャリア教育推進事業 教育庁 高校教育課	10,963 8,042 6,022	キャリア教育に関する学習プログラムを学校経営案に掲載するとともに、インターンシップ、デュアルシステム、職業講話を実施。インターンシップは引き続き県立高校全校での実施を目指す。	<p>○平成21年度の取組みの実績、成果</p> <p>キャリア教育に関する学習プログラムを学校経営案に掲載するとともに、インターンシップ、デュアルシステム、職業講話を実施。インターンシップは、県立高校全校で予定したが、インフルエンザの影響で3校が急遽中止し6,771人が体験した。</p> <p>○事業実施上の課題、今後の改善の方向性</p> <p>3年間でインターンシップを一度も経験せずに卒業している生徒が普通科では60%を越えている。中教審等では、普通科高校のキャリア教育の推進が特に取り上げられているが、本県としても課題の一つである。</p>